

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	人間の尊厳と自立	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	藤原 芳朗	学年・学期	1年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・授業内容	「人間」その「生活」とは何かを基本に、各ライフステージの特徴や課題を理解し、日常生活を営むことが困難になった人々に対する支援のあり方について論じる。また、人間の尊厳と人権・福祉理念について学ぶとともに、生活者の視点としての自立の概念について認識させる。						
到達目標	1) 人権思想・福祉理念の歴史的変遷を理解する 2) 人間にとっての自立の意味と本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する 3) 介護における尊厳の保持・自立支援のための基礎的能力を習得する						
授業計画・内容							
第1週	人間とその特性—多面的理解の必要性						
第2週	人間の尊厳—概念と歴史性の理解						
第3週	人間の尊厳—利用者主体の考え方						
第4週	人権・福祉の理念—人権思想の歴史的展開(ジェンダー・差別・性など)						
第5週	人権・福祉の理念—人権尊重(生存権、自由権、平等権など)						
第6週	人間の生活—その歴史的・社会的展開						
第7週	人間の生活—ノーマライゼーション						
第8週	人間の生活—QOL(生命、生活、人生の質)						
第9週	生命倫理—遺伝子診断、死生観、QOD(死の質)など						
第10週	自立・自律の概念と生活支援の理解						
第11週	自立生活—ライフサイクルに応じた生活の自立						
第12週	尊厳の保持と自立のあり方—権利擁護、アドボカシー						
第13週	尊厳の保持と自立のあり方—自己決定、自己選択						
第14週	尊厳の保持と自立のあり方—インフォームドコンセント、インフォームドアセント、リビングウイル						
第15週	まとめと試験						
評価方法	試験、出席、授業態度によって総合的に評価する。						
教科書 教材など	「医療福祉と財政 講義ノート」						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	人間関係とコミュニケーション I	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	岡崎 利治	学年・学期	1年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・授業内容	人間関係の基礎理論にふれ、現代社会の人間関係と価値観について論じ、介護福祉職として必要な利用者や家族等の人間関係についても講義する。人間関係の形成や対象の理解に必要なコミュニケーションのプロセスとメカニズムについて教授する。						
到達目標	戦後、社会の変容とともに、人間関係の希薄化、個人化の進行などの要因について理解する。 人間関係の基礎的な理論について理解する。 人間関係形成の有効な手段でもあるコミュニケーションの基礎知識を修得する。 相互行為としてもコミュニケーションと言語的・非言語的コミュニケーションについて理解する。						
授業計画・内容							
第1週	現代社会の人間関係と価値観、人間関係の希薄化、個人化						
第2週	人間関係と心理—自己覚知、他者理解、ラポール						
第3週	対人関係とコミュニケーション—コミュニケーションの意義・目的						
第4週	対人関係とコミュニケーション—コミュニケーションの特徴・過程						
第5週	対人関係とコミュニケーション—コミュニケーションを促す環境・アサーティブネス(自他を尊重した自己表現)、ポライトネス(相手を尊重する言語的配慮)						
第6週	コミュニケーションの基礎理論						
第7週	コミュニケーション技法の基礎—物理的、心理的距離の、理解、環境整備						
第8週	コミュニケーション技法の基礎—受容、共感、傾聴						
第9週	相談面接の基礎—バイステックの原則、マイクロカウンセリング、感情の転移・逆転移						
第10週	言語的・非言語的コミュニケーション						
第11週	組織におけるコミュニケーション						
第12週	介護現場で必要とされるコミュニケーションの力						
第13週	リーダーシップと小集団のダイナミクス						
第14週	組織における情報の流れとネットワーク						
第15週	まとめと到達度評価						
評価方法	到達度評価と、出席状況、講義中の提出物を加味し評価する						
教科書 教材など	「人間の理解」中央法規出版						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	社会の理解		学科名	介護福祉学科		授業方法	講義	
担当教員	徳山 ちえみ		学年・学期	1年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	<p>個人が自立した生活を営むということを理解するため、個や集団、社会の単位(個人、家族、社会、近隣、地域、社会)を理解する視点を養い、社会と人間の生活のしくみや、地域共生社会の実現に向けた制度や施策について教授する。新聞記事やテレビニュースなどを切り口として、現代社会の特質を論じる。家族及び地域社会に重点を置くが、それをグローバル化がもたらすさまざまな可能性や問題点についても論ずる。</p>							
到達目標	<p>① 社会理論による現代社会の捉え方が理解できる。 ② 生活の基本機能と福祉について理解できる。 ③ 社会と生活について理解できる。 ④ 社会問題について理解できる。</p>							
授業計画・内容								
第1週	家庭生活の基本機能							
第2週	現代社会における家族 (1)							
第3週	現代社会における家族 (2)							
第4週	現代社会における地域社会							
第5週	介護実践に関連する諸制度							
第6週	社会と組織 (1)							
第7週	社会と組織 (2)							
第8週	ライフスタイルの変化 (1)							
第9週	ライフスタイルの変化 (2)							
第10週	社会構造の変容 (1)							
第11週	社会構造の変容 (2)							
第12週	生活支援と福祉 (1)							
第13週	生活支援と福祉 (2)							
第14週	役割と地位 ー現代社会と専門職ー							
第15週	現代社会における社会問題、まとめ							
評価方法	提出物、試験と出席で評価する。							
教科書 教材など	「社会の理解」中央法規出版 「福祉小六法」中央法規出版							
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目		

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	高齢者福祉論	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	藤原 芳朗	学年・学期	1年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・授業内容	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉、介護需要(高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む)について理解する。高齢者福祉制度の基本的な考え方と仕組みについて理解する。相談援助活動において必要になる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に関わる他の法制度について理解する。						
到達目標	介護保険制度を中核とした高齢者福祉制度の体系と相談援助活動に関わる法制度について理解を得る。						
授業計画・内容							
第1週	少子・高齢社会の実相						
第2週	高齢者の生活実態とこれを取りまく社会情勢						
第3週	生活構造の変容と高齢者の生活実態						
第4週	ライフサイクルからみた高齢期の特徴						
第5週	高齢者福祉の変遷—措置制度から契約制度へ						
第6週	高齢者の介護保障—老人福祉法						
第7週	高齢者の介護保障—介護保険法—老人保健法の改正						
第8週	高齢者の介護保障—介護保険法						
第9週	介護保険法におけるサービス提供体制						
第10週	地域包括支援センターの役割と実際						
第11週	高齢者の住まいと施策						
第12週	高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援などに関する法律理解						
第13週	セルフネグレクト						
第14週	高齢期の住まい: 高齢者の居住の安定確保に関する法律						
第15週	まとめ						
評価方法	試験、提出物、出席状況で評価する						
教科書教材など	適宜提示する						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	児童・家庭福祉論	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	木村 智恵	学年・学期	1年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・授業内容	尊厳の保持、自立支援の観点から児童の理解、児童福祉制度の基盤のうえに、各々の児童福祉の課題・ニーズに対応した、施策について教授する。また、家庭機能の低下の現状とそれを補完する施策やボランティア・セクションの支援について講義する。						
到達目標	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要(子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力など)について自立支援の視点を基盤とする視点をもって理解する。児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。児童の権利、尊厳の保持について理解する。相談援助活動に必要な児童・家庭福祉制度とこれに係る他の法制度について理解する。						
授業計画・内容							
第1週	児童の定義と権利						
第2週	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢						
第3週	児童・家庭を取り巻く福祉需要						
第4週	児童・家庭福祉制度の発展過程						
第5週	児童福祉法						
第6週	児童虐待防止法・D.V法						
第7週	母子及び寡婦福祉法・売春防止法・母子保健法・児童手当法						
第8週	児童扶養手当法・特別児童扶養手当等の支給に関する法律						
第9週	次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法						
第10週	児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際						
第11週	児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際						
第12週	児童・家庭福祉制度における多職種連携、ネットワーキングと実際						
第13週	制度以外の児童への支援						
第14週	児童相談所の役割と実際						
第15週	まとめ・定期試験						
評価方法	試験・出席、提出物で評価する。						
教科書 教材など	「はじめての子ども家庭福祉」ミネルヴァ書房						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	社会福祉概論		学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	徳山 ちえみ		学年・学期	1年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	福祉制度の原理的な役割と機能を論じ、制度発祥から現代に存在する意味について授業を展開する。つぎに、現代社会を構成する基礎的要素たとえば経済活動や法治等との関連と位置づけから授業を展開する。また、近代以降の人間の尊厳・自立・介護などについても教授する。							
到達目標	社会、組織の概念について理解する。現代社会において福祉制度が存在する意味と機能について、社会構造のなかに位置づけて理解することができる。とくに、現代社会のもつ課題や社会変容の方向性によって変化する福祉ニーズを理解かつ予測することの重要性を自ら自覚的に理解する。福祉制度の有する機能を客観的に把握できる。							
授業計画・内容								
第1週	「社会」とは何か、「福祉」とは何か:近代人権以降と以前、資本主義展開との関連							
第2週	福祉政策と社会:社会構成基礎要素と福祉制度の関連							
第3週	福祉制度政策と専門職:専門職の存在と機能							
第4週	福祉の思想と哲学①:産業革命まで							
第5週	福祉の思想と哲学②:産業革命から現代まで							
第6週	福祉制度政策と経済:経済活動と福祉							
第7週	福祉制度政策と法:法治社会と福祉							
第8週	福祉制度政策と社会・個人:個人と福祉政策							
第9週	福祉政策の展開過程:社会の類型と福祉							
第10週	近代以降の福祉:近代社会における機能-自律と尊厳の誕生							
第11週	戦後の福祉政策の展開:現代社会と福祉							
第12週	人口縮小・超高齢化社会と福祉政策							
第13週	福祉政策におけるニーズと社会資源							
第14週	福祉政策の主体と方法:個人と家族							
第15週	福祉政策の主体と方法:地域と行政 まとめ							
評価方法	試験と提出物、出席等で評価する							
教科書 教材など	「社会の理解」中央法規出版、福祉小六法							
実務経験							実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護福祉論 I	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義	
担当教員	近藤 舞	学年・学期	1年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須	
授業概要・授業内容	介護に関する理念・定義・目的・歴史性・社会的背景など基礎的な知識について論じる。また、介護福祉士の役割と機能を踏まえ、利用者主体の考え方と人権保障、ノーマライゼーションの理念について論じる。授業方法は、講義を中心とするが、データや事例をもとに具体的にイメージ化を図る。							
到達目標	①介護の成り立ち、介護福祉士の誕生をとりまく状況とその社会背景、介護の概念の変遷について理解する ②介護福祉士の基本理念を支える仕組みの理解 ③介護福祉士の役割と機能を支える仕組みの理解 ④尊厳を支える介護の目的と意義について理解する ⑤自立に向けた介護の目的と意義について理解する ⑥介護の原則、立脚点を理解する							
授業計画・内容								
第1週	介護福祉士を取巻く状況介護福祉士の誕生の社会的背景							
第2週	介護概念の変遷—社会の変化と介護福祉の歴史① 制度化以前の介護							
第3週	介護概念の変遷—社会の変化と介護福祉の歴史② 家族・地域の変化							
第4週	介護概念の変遷—社会の変化と介護福祉の歴史③ 介護需要の増加							
第5週	介護概念の変遷—社会の変化と介護福祉の歴史④ 介護の社会化							
第6週	介護福祉の基本理念—尊厳の持つ意味と歴史性							
第7週	介護福祉の基本理念—利用者主体の考え方と人権保障、ノーマライゼーションについて							
第8週	介護福祉の基本理念—自立に向けた介護(自立の概念と意義の理解)							
第9週	介護福祉士の役割と機能—社会福祉士及び介護福祉士法							
第10週	介護福祉士の役割と機能—介護福祉士の活動の場①							
第11週	介護福祉士の役割と機能—介護福祉士の活動の場②							
第12週	介護福祉士の役割と機能—自立を支える介護							
第13週	介護福祉士養成カリキュラムの変遷							
第14週	介護福祉士を支える団体							
第15週	まとめと試験							
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する							
教科書教材など	「介護の基本 I」中央法規出版							
実務経験	高齢者福祉施設での介護業務の経験あり。介護福祉士の免許取得。					実務経験のある教員による授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護福祉論Ⅱ	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義	
担当教員	近藤 舞	学年・学期	1年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須	
授業概要・授業内容	要介護者の生活実態を知り、介護福祉における自立に向けた介護の意義について、要介護者の生活実態に則して、生活障害の改善や家族支援の実際について事例を交えて教授する。また、介護予防、リハビリテーション等の意義や方法についても論じる。							
到達目標	①自立に向けた介護福祉のあり方について理解する ②ICFの考え方とアセスメントの視点を理解する ③自立支援とエンパワメント、ストレングスの視点を理解する ④介護予防とリハビリテーションの意義と方法について理解する							
授業計画・内容								
第1週	介護福祉士の倫理と専門性—職業倫理の意義—							
第2週	介護福祉士の倫理と専門性—法令順守—							
第3週	介護福祉士の倫理と専門性—日本介護福祉士会倫理綱領、行動規範—							
第4週	利用者理解の視点に基づく自立に向けた介護—ICFの考え方—							
第5週	利用者理解の視点に基づく自立に向けた介護—エンパワメント、ストレングス、意思決定支援—							
第6週	生活意欲と活動—社会参加(役割、趣味、レクリエーションなど)							
第7週	生活意欲と活動—アクティビティ、就労支援							
第8週	自立支援とリハビリテーション—生活を通したリハビリテーション—							
第9週	自立支援とリハビリテーション—リハビリテーションと介護予防—							
第10週	自立支援とリハビリテーション—バリアフリーとユニバーサルデザイン—							
第11週	自立支援と介護予防—介護予防の概要							
第12週	自立支援と介護予防—高齢者の身体特性と介護予防							
第13週	自立支援と介護予防—介護予防の実際—							
第14週	自立支援と介護予防—介護予防における介護福祉士の役割—							
第15週	まとめ							
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する							
教科書教材など	「介護の基本Ⅰ」中央法規出版							
実務経験	高齢者福祉施設での介護業務の経験あり。介護福祉士の免許取得。					実務経験のある教員による授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	レクリエーション概論	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	秋政 邦江	学年・学期	1年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	日常生活支援におけるレクリエーションの意義、目的を理解し、援助対象者の生活意欲を引き出し、自立に向けた介護をすることの意義と効果について講義する。また、障がい児・者や高齢者等を対象とするスポーツ指導の方法を教授する。						
到達目標	日常生活活性化させる活動の基本的知識の理解および高齢者、障がい児・者等に応じた支援のあり方を理解する。また、障がい児・者や高齢者等を対象とするスポーツ指導の方法を習得する。						
授業計画・内容							
第1週	レクリエーション活動援助法 -ICFの視点から-						
第2週	高齢者や障がい児・者等の生活の快適性とレクリエーション						
第3週	日常の生活支援に果たすレクリエーションの役割						
第4週	障害に応じた(身体障害、知的障害、内部障害、精神障害等)のレクリエーションの意義、目的、方法						
第5週	自立を支援する介護予防としてのレクリエーション指導方法						
第6週	高齢者、障がい児・者等のスポーツの捉え方やその意義、理念						
第7週	生活環境(施設、在宅)におけるレクリエーションと安全管理						
第8週	自立を支援する介護予防としてのスポーツ指導方法						
第9週	スポーツ指導におけるボランティア活動の必要性:ボランティア精神と活動の基本姿勢 I						
第10週	スポーツ指導におけるボランティア活動の必要性:ボランティア精神と活動の基本姿勢 II						
第11週	ゲストスピーカー:スポーツ活動をしている障がい者の体験談						
第12週	ゲストスピーカー:スポーツ活動をしている障がい者の体験談						
第13週	レクリエーション・プログラムの計画立案						
第14週	レクリエーション・プログラムの計画発表						
第15週	到達度評価						
評価方法	レポート、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する						
教科書 教材など	「楽しさをとoshした心の元気づくり -レクリエーション支援の理論と方法」日本レクリエーション協会						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	社会福祉援助技術	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	徳山 ちえみ	学年・学期	1年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業内容	介護や相談援助におけるコミュニケーションの基本、利用者や家族との介護場面や面接でのコミュニケーション技術、チームによるコミュニケーションの必要性とその情報の共有化の方法について学ぶ。						
到達目標	介護や相談援助の対象者やその家族の理解、そして多職種協働に必要とされるコミュニケーション能力を身につけることができる。						
授業計画・内容							
第1週	介護におけるコミュニケーションの基本Ⅰ ー 意義・目的・役割						
第2週	介護におけるコミュニケーションの基本Ⅱ ー 利用者・家族との関係づくり						
第3週	相談援助における援助関係Ⅰ ー 意義・概念						
第4週	相談援助における援助関係Ⅱ ー コミュニケーションとラポール						
第5週	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションⅠ						
第6週	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションⅡ						
第7週	相談援助のための面接技術 ー 面接で用いるコミュニケーションⅠ						
第8週	相談援助のための面接技術 ー 面接で用いるコミュニケーションⅡ						
第9週	介護におけるチームのコミュニケーションⅠ ー 情報の共有化						
第10週	介護におけるチームのコミュニケーションⅡ ー 報告、会議						
第11週	スーパービジョンⅠ						
第12週	スーパービジョンⅡ						
第13週	記録Ⅰ						
第14週	記録Ⅱ						
第15週	まとめ、到達度評価						
評価方法	小テストと、授業態度(出席状況を含む)で評価する。						
教科書 教材など	「コミュニケーション技術」中央法規出版						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	生活支援技術Ⅰ	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習	
担当教員	増見 富海子・近藤 舞	学年・学期	1年・前期	時間数	60 時間	必須・選択	必須	
授業概要・授業内容	生活行為を成立させるための技術として、移動・身支度・食事・排泄等の介護実践において、安全性・自立性・介護予防の視点から、原理・原則・法則性に基づいた基本技術の習得を演習・講義により教授する。							
到達目標	①身体機能低下が及ぼす生活障害の理解 ②身体の仕組みや機能についての理解 ③身体状態の観察技術、コミュニケーション技術、自立に向けた移動の介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた排泄の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた身支度の介護、自立に向けた睡眠の介護等の生活行為を成立させる技術の習得							
授業計画・内容								
第1週	生活支援技術の構造的理解(原理・原則・法則性)							
第2週	身体機能低下が及ぼす生活障害の理解							
第3週	心身の状態、生活状態のアセスメント技法							
第4週	ベッドメイキングの実習とベッド上の臥床経験							
第5週	ボディーメカニクスの理解と活用技術							
第6週	身体の仕組みの理解と体位変換技術							
第7週	自立に向けた移動の介護、トランスファの基本技術、(歩行、車いす、ストレッチャー、杖歩行等の移動・移乗技術)外出介助							
第8週	安全の確保と、自立にむけた食事の介護技術(誤嚥防止の姿勢保持、食欲喚起)							
第9週	安全の確保と、自立にむけた排泄の介護技術(排泄状態に応じた援助技法、排泄の自立度に応じた衣類寝具の選択と介助、失禁時の対応)							
第10週	安全と確保と自立にむけた入浴・清潔保持の介護技術(入浴介護・清拭介護)							
第11週	安全の確保と自立に向けた身支度の介護技術(臥床状態でのリネン交換)							
第12週	安全の確保と自立に向けた睡眠の介護技術							
第13週	終末期の介護技術							
第14週	まとめ							
第15週	まとめ 試験							
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する							
教科書教材など	「生活支援技術Ⅰ」「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版							
実務経験	高齢者福祉施設での介護業務の経験あり。介護福祉士の免許取得。					実務経験のある教員による授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	生活支援技術Ⅱ(家政学)	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	幸坂 寛子	学年・学期	1年・前期	時間数	60 時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業内容	要介護者の心身の健康の保持と自立支援、生活の質の向上に不可欠の衣・食・住と介護福祉士の役割について教授する。ライフサイクルや手段的日常生活動作を成立させるための技術について教授する。						
到達目標	①心身の機能と住環境整備の知識と生活支援技術の習得 ②心身の機能と衣生活の知識と生活支援技術の習得 ③心身の機能と食生活の知識と生活支援技術の習得 ④尊厳保持と生活の質の維持向上のための衣食住の重要性と生活支援技術の習得						
授業計画・内容							
第1週	生活の継続性を支援し、対象者個々に応じた家事を自立的に行うこと生活支援技術						
第2週	心身機能の低下と家政管理						
第3週	住生活(1)バリアフリーとユニバーサルデザイン						
第4週	住生活(2)快適で安全な住環境と整理・整頓、掃除						
第5週	住生活(3)生活の質の向上と介護負担軽減のための住宅改修、福祉用具の活用						
第6週	住生活(4)体験学習:住宅改修、福祉用具						
第7週	食生活(1)調理の基本:材料の選び方、下処理、軽量、加熱、調味						
第8週	食生活(2)調理の基本:食中毒の予防						
第9週	食生活(3)調理の基本:生活習慣予防のための食事・高齢期の食事						
第10週	食生活(4)楽しくおいしい食事:食事形態、盛り付けの工夫、食卓の演出						
第11週	衣生活(1)自立を支援する着やすいデザイン、素材の選択						
第12週	衣生活(2)衣類の洗濯						
第13週	衣生活(3)衣類の繕い、収納、衣替え						
第14週	衣生活(4)尊厳と自立を支える装いと介護の役割						
第15週	まとめ 試験						
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する						
教科書 教材など	「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	生活支援技術Ⅲ	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	増見 富海子 ・ 小野 史恵 ・ 近藤 舞	学年・学期	1年・後期	時間数	60 時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業内容	生活行為を成立させるための基本的な技術の習得とともに医療対応時の介護や緊急時、終末期の介護について教授する。感染防止、介護事故のリスクマネジメントについて教授する。						
到達目標	① 自立に向けた清潔の介護技術の習得(入浴・洗髪・清拭の介護) ② 安全・安楽の介護技術の習得 ③ 休息・睡眠の自立に向けた医療対応時の介護技術の習得(医療との連携、記録、報告の技術) ④ 自立にむけた服薬の介護に必要な技術の習得(医療との連携、記録、報告の技術) ⑤ 緊急時の介護技術の習得 ⑥ 人生の最終段階における介護に必要とされる環境整備、医療との連携の技術の習得 ⑦ 災害時の介護、チームケアの意義の理解 ⑧ 感染防止・介護予防の介護技術の習得						
授業計画・内容							
第1週	自立に向けた清潔の介護(入浴)・(洗髪)						
第2週	自立に向けた清潔の介護(清拭)・(洗髪)						
第3週	自立に向けた安全・安楽の介護						
第4週	休息・睡眠の介護						
第5週	福祉用具の意義と活用:介護ロボット、ITの活用						
第6週	医療対応時の介護(医療との連携、記録、報告の技術)						
第7週	服薬の介護						
第8週	緊急時の介護						
第9週	終末期の介護に必要とされる環境整備、医療との連携の技術						
第10週	感染防止・介護予防(医療との連携、記録、報告の技術)						
第11週	介護事故とリスクマネジメント						
第12週	災害時の介護と多職種連携						
第13週	腰痛予防の介護方法						
第14週	まとめ、到達度目標達成度評価:実技						
第15週	まとめ、到達度目標達成度評価:試験						
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する						
教科書 教材など	「生活支援技術Ⅰ」「生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版						
実務経験	保健所にて保健課・健康長寿課等の実務経験あり。また、看護師・保健師・ 養護教諭の資格を取得/特別養護老人ホームにて現場経験あり				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	生活支援技術Ⅴ(手話・点字)	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	岡山県聴覚障害者福祉協会(手話) 金光 英子・野方 和(点字)	学年・学期	1年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業内容	介護を必要とする対象の理解やコミュニケーションについて理解するとともに、生活支援の観点から、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための講義を行う。						
到達目標	特性に応じたコミュニケーション技術の習得 ・自立を支援するための特性に応じたコミュニケーション技術について理解する。 ・手話で日常会話ができる ・日本文の点訳と点訳の用具の理解						
授業計画・内容							
第1週	オリエンテーション						
第2週	自立を支援するための介護と聴覚障がい者の特性に応じた表現とは						
第3週	手話の歴史と基礎知識						
第4週	手話の基礎知識						
第5週	日常会話						
第6週	日常会話						
第7週	聴覚障がい者の生活、会話と生活支援						
第8週	まとめ						
第9週	オリエンテーション、授業内容						
第10週	自立を支援するための介護と視覚障害の特性に応じた表現方法とは						
第11週	点字の歴史と基礎知識						
第12週	点字の構成・凹面と凸面・数字とアルファベット						
第13週	かなづかいと文節、分かち書き(凹面、凸面)						
第14週	点字を読む、点訳の点検						
第15週	まとめ						
評価方法	小テスト、出席状況、実技により総合的に評価する						
教科書 教材など	手話: 聴さんと学ぼう						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	レクリエーション活動支援法	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	秋政 邦江	学年・学期	1年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業内容	障がい児・者や高齢者が能力を活用・発揮し生活の質を高める方法としてレクリエーション(アクティビティ)の理論に基づき、企画・立案方法を身につける。利用者一人ひとりの心身の活性化のための日常生活支援、レクリエーション活動を様々な場面で応用できることや障がい児・者や高齢者を対象とするスポーツ指導の方法について、実技・演習およびゲストスピーカーの講義を通して教授する。						
到達目標	老齢や障害による生活の不自由さを理解するとともに、普通の生活を送ることができるように個々の残存能力を活用して、自尊心や有用感、達成感を感じることができるような支援の方法が理解できる。また、快適な生活環境を整え、利用者の心身の生活の活性化のための日常生活支援(アクティビティサービス)方法およびスポーツ指導の方法を習得する。						
授業計画・内容							
第1週	レクリエーションからアクティビティサービスへの理論の展開						
第2週	高齢者、障害児・者にとっての日常生活支援とレクリエーション援助						
第3週	高齢者、障害児・者へのスポーツ指導の理論とは						
第4週	利用者と援助者(施設、在宅におけるレクリエーション援助)						
第5週	レクリエーションの基本援助技術Ⅰー日常生活支援とコミュニケーション						
第6週	レクリエーションの基本援助技術Ⅱー生活環境の整備(「衣」、「食」、「住」)						
第7週	高齢者のスポーツの捉え方やその意義、理念						
第8週	障がい児・者のスポーツの捉え方やその意義、理念						
第9週	レクリエーション援助と安全管理						
第10週	高齢者、障害児・者スポーツと安全管理						
第11週	レクリエーションプログラムの展開の方法について学ぶ						
第12週	高齢者スポーツ指導プログラムの展開の方法について学ぶ						
第13週	障害児・者スポーツプログラムの展開の方法について学ぶ						
第14週	スポーツ指導におけるボランティア活動の必要性:ボランティア精神と活動の基本姿勢Ⅰ						
第15週	スポーツ指導におけるボランティア活動の必要性:ボランティア精神と活動の基本姿勢Ⅱ						
評価方法	出席状況・授業態度・試験等を総合的に評価する						
教科書 教材など	「楽しさをとoshした心の元気づくり - レクリエーション支援の理論と方法」日本レクリエーション協会						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護過程総論	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	増見 富海子	学年・学期	1年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	介護過程の意義、目的、内容などについて理解するために、介護の実践活動がどのような過程を経て行われるのかを、その過程の考え方や構成要素について、具体的事例を交え、講義形式で論じる。						
到達目標	①本人の望む生活を実現するための介護実践における介護過程の意義・目的が理解できる ②介護実践において、必要な情報収集を行い、内容や方法を計画し、実施、評価する一連の介護過程の展開を理解する						
授業計画・内容							
第1週	オリエンテーション						
第2週	介護過程の意義						
第3週	介護過程の目的						
第4週	介護過程の展開の概要						
第5週	介護過程の展開Ⅰ アセスメントと情報収集						
第6週	介護過程の展開Ⅱ 情報の解釈・関連付け・統合						
第7週	介護過程の展開Ⅲ 課題の明確化						
第8週	介護過程の展開Ⅳ 計画の意義、目標の設定						
第9週	介護過程の展開Ⅴ 支援の内容・方法						
第10週	介護過程の展開Ⅵ 実施の準備・留意点・把握						
第11週	介護過程の展開Ⅶ モニタリング						
第12週	介護過程の展開Ⅷ 評価と修正						
第13週	介護過程の展開Ⅸ 記録の書き方、ICFの視点と介護過程						
第14週	介護過程の展開Ⅹ 記録の書き方、ICFの視点と介護過程						
第15週	まとめと到達度評価						
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する						
教科書 教材など	「介護過程」中央法規出版						
実務経験	特別養護老人ホームにて現場経験あり				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護過程展開論	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	増見 富海子	学年・学期	1年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開について、具体的事例を通してその方法を教授する。介護過程におけるチームアプローチの必要性や連携方法について事例を基に論じる。						
到達目標	①介護過程を概念化し理論化し、体系立てて理解できる ②利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開方法が理解できる。						
授業計画・内容							
第1週	オリエンテーション						
第2週	介護過程の実践的展開						
第3週	「アセスメント」の実際Ⅰ － 認知症						
第4週	「アセスメント」の実際Ⅱ － 内部障害						
第5週	「アセスメント」の実際Ⅲ － コミュニケーション障害						
第6週	「アセスメント」の実際Ⅳ － 精神障害						
第7週	「アセスメント」の実際Ⅴ － ターミナル						
第8週	「介護過程」展開の実際Ⅰ － 高齢者施設(特養・老健・グループホームを含む)						
第9週	「介護過程」展開の実際Ⅱ － 障害者(児)施設(身体障害者療護施設・重症心身障						
第10週	「介護過程」展開の実際Ⅲ － 在宅						
第11週	「介護過程」展開の実際Ⅳ － 地域における介護ニーズ						
第12週	介護過程とチームアプローチⅠ－介護過程とケアマネジメントの関係						
第13週	介護過程とチームアプローチⅡ－チームアプローチの意義						
第14週	介護過程とチームアプローチⅢ－サービス担当者会議について						
第15週	まとめと到達度評価						
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する						
教科書 教材など	「介護過程」中央法規出版						
実務経験	特別養護老人ホームにて現場経験あり				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護実習 I	学科名	介護福祉学科			授業方法	実習
担当教員	近藤 舞・徳山 ちえみ・増見 富海子・小野 史恵	学年・学期	1年・前期	時間数	64 時間	必須・選択	必須
授業概要・授業内容	地域における施設の役割・機能を知り、施設を利用する愛称者の様々な生活上の需要を理解する。本人・家族とのコミュニケーションを通して信頼関係の構築方法を学ぶ。介護福祉士に求められる役割と機能を理解する。各領域で学んだ知識・技術を統合し、介護実践に必要な観察力、判断力を養う。						
到達目標	①施設の概要を理解する②観察やコミュニケーションを通して対象者の対象者の生活を理解する③職員と対象者との援助関係を理解する④対象者の障害の程度を正しくとらえ、身体的特性を理解する⑤介護の需要に関する理解力、判断力を養う⑥介護職員の業務内容を理解する						
授業計画・内容							
第1週	①朝礼に参加し、業務の引継ぎ体験－報告・連絡・相談－						
第2週	②施設の行事やレクリエーションに参加－生活の中で実施するリハビリや楽しみの実際－						
第3週	③本人・家族とのコミュニケーションによる信頼関係の構築						
第4週	④施設における対象者の生活リズムの理解						
第5週	⑤施設の役割・機能と施設で働く専門職の役割・機能の理解						
第6週	⑥障害の程度、個別性を尊重した介護技術の実践場面の見学						
第7週	⑦対象者の生活上の利便性の向上と介護職員の負担の軽減のための福祉用具の活用の実際						
第8週	⑧実習反省会に参加し、司会、発表の実施						
第9週							
第10週							
第11週							
第12週							
第13週							
第14週							
第15週							
評価方法	レポート、授業態度、出席状況、実習記録および学習の理解度、関連知識・技術の理解度						
教科書教材など	「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 「介護実習の手引き」						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護実習Ⅱ	学科名	介護福祉学科			授業方法	実習
担当教員	近藤 舞・徳山 ちえみ・増見 富海子・小野 史恵	学年・学期	1年・後期	時間数	86 時間	必須・選択	必須
授業概要・授業内容	個々の生活リズムや個性を理解するために様々な場における個別ケアを理解し、本人・家族との関係構築のためのコミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得させる。地域におけるさまざまな場において対象者の生活を理解し、ニーズにふさわしい自他居宅サービスの実際について理解させる。各領域で学んだ知識・技術を統合し、介護実践に必要な暗殺力、判断力を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①本人・家族との相互理解・信頼関係の構築のためのコミュニケーションを習得する。 ②障害のレベルに応じて求められる適切な介護技術を習得する。 ③介護を助ける住設備機器や福祉用具の知識と活用能力を養う。 ④地域で生活する対象者の生活上の需要を知り、居宅介護サービスの実際を理解する。 						
授業計画・内容							
第1週	①朝礼に参加し、業務の引継ぎ体験－報告・連絡・相談－						
第2週	②施設の行事やレクリエーションに参加－生活の中で実施するリハビリや楽しみの実際－						
第3週	③本人・家族とのコミュニケーションによる信頼関係の構築						
第4週	④地域における対象者の生活ニーズと訪問介護・デイサービスの実際						
第5週	⑤地域における事業所、期間の役割、機能施設の役割・機能						
第6週	⑥障害の程度、個別性を尊重した介護技術の実践場面の見学と指導による実施						
第7週	⑦対象者の生活上の利便性の向上と介護職員の負担の軽減のための福祉用具の活用の実際						
第8週	⑧実習反省会に参加し、司会、発表の実施						
第9週							
第10週							
第11週							
第12週							
第13週							
第14週							
第15週							
評価方法	レポート、授業態度、出席状況、実習記録および学習の理解度、関連知識・技術の理解度						
教科書教材など	「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 「介護実習の手引き」						
実務経験						実務経験のある教員による授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護総合演習 I	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	近藤 舞・徳山 ちえみ・増見 富海子・小野 史恵	学年・学期	1年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・授業内容	<p>実習の教育効果をあげるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。</p>						
到達目標	<p>①介護実習の意義・目的について理解する ②介護実習を通じて、学校内で学んだ知識、技術、態度を具体的かつ実際に理解する ③施設の機能、役割、そこにおける介護福祉職の機能、役割を理解する ④施設で生活する人の需要と施設での生活について理解する</p>						
授業計画・内容							
第1週	施設介護実習の目的の理解						
第2週	介護実習施設の概要及び利用者の理解						
第3週	介護実習施設での介護サービスの機能、役割及び関係法令等の理解						
第4週	施設介護実習に必要な知識、技術の理解(コミュニケーション技術、観察技術、介護技術などのロールプレイ)						
第5週	介護実習 I の目標、課題の明確化						
第6週	介護実習 I における実習計画書の作成						
第7週	実習記録の意義や記載方法の理解						
第8週	施設介護実習における諸注意(実習生の心得、利用者のプライバシー保護、守秘義務など)						
第9週	介護実習 I での体験の共有化とスーパービジョン						
第10週	介護実習 I での体験の共有化とスーパービジョン						
第11週	介護実習レポートの作成指導						
第12週	介護実習 I の振り返りとスーパービジョン						
第13週	介護実習 I の自己評価とスーパービジョン						
第14週	介護実習 I のまとめ						
第15週	介護実習 II に向けての課題の明確化						
評価方法	レポート、授業態度、出席状況、実習記録および学習の理解度、関連知識・技術の理解度						
教科書教材など	「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 「介護実習の手引き」						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護総合演習Ⅱ	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	近藤 舞・徳山 ちえみ・増見 富海子・小野 史恵	学年・学期	1年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・授業内容	<p>実習の教育効果をあげるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。</p>						
到達目標	<p>①学校内で学んだ知識、技術、態度が介護実践の場において具体的に理解できる ②言語的コミュニケーション及び非言語的コミュニケーションを活用し利用者との介護関係が形成できる ③介護職員の介護実践の観察と職員の指導の下に実践することで、学校内で習得した各領域の知識と技術の統合を図る ④地域で生活する人の生活上の需要を知るとともに居宅サービスの実際を理解する ⑤地域における多職種協働や機関との連携の必要性について理解する</p>						
授業計画・内容							
第1週	施設・訪問介護実習の目的の理解						
第2週	介護実習施設ならびに居宅サービスの概要及び関係法令の理解						
第3週	介護実習施設ならびに居宅サービスの対象者の身体的・精神的・社会的特徴の理解						
第4週	介護実習施設ならびに居宅サービスにおける多職種の業務内容・範囲及び介護福祉士の役割やチームアプローチの方法の理解						
第5週	地域における居宅サービス事業所や機関の役割や機能の理解						
第6週	介護関係の形成の理解(プロセスレコードの書き方、対象者との関わり方の考察)						
第7週	介護実習Ⅱの目標、課題の明確化						
第8週	介護実習Ⅱにおける実習計画書の作成						
第9週	介護実習Ⅱでの体験の共有化とスーパービジョン						
第10週	介護実習Ⅱでの体験の共有化とスーパービジョン						
第11週	介護実習Ⅱの振り返りとスーパービジョン						
第12週	介護実習Ⅱの振り返りとスーパービジョン						
第13週	介護実習Ⅱレポートの作成指導						
第14週	介護実習Ⅱのまとめ						
第15週	介護実習Ⅲに向けての課題の明確化						
評価方法	レポート、授業態度、出席状況、実習記録および学習の理解度、関連知識・技術の理解度						
教科書 教材など	「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 「介護実習の手引き」						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	精神保健	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	岡崎 利治	学年・学期	1年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業内容	精神保健について、第1に自分を見つめる作業を通して、自己理解を進める。第2に介護実践に必要なところからだのしくみについての知識を教授する。支援を必要とする人の心の健康を中心に現代的な課題や事象について教授する。精神医学の概要、精神医療の実情についての基礎知識や法律、制度についても概観し、精神保健について「多面的にとらえることができるように教授する。						
到達目標	精神医療の基礎知識、法律、制度について理解する。支援を必要とする人の心の健康を中心に、ころのしくみの理解ができる。現代的な課題や事象について理解する。事例を通して、人間関係の視点から、誰にでも起こり得る出来事として捉えることができる。						
授業計画・内容							
第1週	オリエンテーション						
第2週	精神保健の基礎知識						
第3週	介護現場での精神保健活動						
第4週	自分を見つめる						
第5週	他者とのかかわり方とところのしくみの理解						
第6週	支援を必要とする人の心の問題1						
第7週	支援を必要とする人の心の問題2						
第8週	介護従事者の心の健康1						
第9週	介護従事者の心の健康2						
第10週	現代社会と心の問題1						
第11週	現代社会と心の問題2						
第12週	主な精神症状と精神疾患						
第13週	介護現場と精神保健						
第14週	介護実践に必要なところのしくみの知識						
第15週	まとめ						
評価方法	試験成績(80%)と授業態度(20%)により評価する。						
教科書 教材など	精神保健の課題と支援						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	解剖生理学		学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	住居 広士		学年・学期	1年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業内容	介護福祉士に必要な人体の解剖学と生理学を学ぶ。							
到達目標	①介護実践に必要な観察力、判断の基礎となる人体の構造と機能の基礎的理解ができる。 ②正常な人体の構造(解剖学)と生命のしくみ(生理学)について理解する。							
授業計画・内容								
第1週	はじめに:心身機能と身体構造の概要							
第2週	細胞と組織							
第3週	人体の器官系							
第4週	外皮系と人体を構成する膜							
第5週	骨格系							
第6週	骨格筋系							
第7週	神経系							
第8週	感覚							
第9週	内分泌系							
第10週	血液、リンパ系と免疫							
第11週	循環器系							
第12週	呼吸器系							
第13週	消化器系							
第14週	国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要							
第15週	人の成長・発達							
評価方法	試験成績(80%)と授業態度(20%)により評価する。							
教科書 教材など	「こころとからだのしくみ」中央法規出版							
実務経験	医師としての実務経験、教育経験あり。 医師免許・社会福祉士免許・介護福祉士免許取得					実務経験のある教員による 授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	老年医学	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	住居 広士	学年・学期	1年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・授業内容	人間の発達の観点から老化と老化に関する心理や身体機能の変化の特徴について教授する。老年医学の主要疾患とその症候について、臨床面からみてとくに重要と考えられる基礎的事項を教授する。人間の成長と発達の基礎的知識を教授する。						
到達目標	老化に伴うところとからだの変化と日常生活について理解できる。人間の成長と発達の基礎的な理解ができる。老化現象の機構、老年期に特有の病態やところとからだのしくみについて理解する。						
授業計画・内容							
第1週	老年医学序論(1) (人間の成長と発達の理解、老化とはなにか)						
第2週	老年医学序論(2) (老年者と老年病、老年期の発達の成熟)						
第3週	老年臨床医学総論 老年病の特徴						
第4週	老年者の神経疾患、精神疾患、不眠症						
第5週	老年者の循環器疾患						
第6週	老年者の呼吸器疾患						
第7週	老年者の消化器系疾患, 機能の低下・障害が及ぼす食事への影響						
第8週	機能の低下・障害が及ぼす整容行動への影響						
第9週	老年期特有の病態(1) 泌尿器疾患、腎不全						
第10週	老年期特有の病態(2) 代謝疾患・内分泌、感染症・血液疾患						
第11週	老年期特有の病態(3) 骨粗鬆症、骨・運動器疾患						
第12週	高齢者と健康						
第13週	老化に伴うところとからだの変化と生活						
第14週	老年者に特有の病態とその対応 (老年症候群・廃用症候群)						
第15週	エイジズム、安楽死、尊厳死						
評価方法	試験成績(80%)と授業態度(20%)により評価する。						
教科書教材など	「ところとからだのしくみ」中央法規出版						
実務経験	医師としての実務経験、教育経験あり。 医師免許・社会福祉士免許・介護福祉士免許取得				実務経験のある教員による授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	発達と老化の理解		学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	小野 史恵		学年・学期	1年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業内容	老年期の発達と成熟、老年期の心理的・社会的・身体的な特徴について教授する。老化に伴うこころと体の変化と日常生活の変化、高齢者の生活課題と援助の特徴、高齢者と健康について講義する。							
到達目標	老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。							
授業計画・内容								
第1週	人間の成長と発達の基本的理解とライフサイクル I (乳幼児期・学童期・思春期)							
第2週	人間の成長と発達の基本的理解とライフサイクル II (青年期、成人期、老年期)							
第3週	老年期の定義と発達課題							
第4週	老年期の心理的特徴							
第5週	老年期の身体的特徴							
第6週	老年期の社会的特徴							
第7週	老化に伴う精神的機能の変化の特徴							
第8週	老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響							
第9週	老化に伴う知的・認知機能の変化と日常生活への影響							
第10週	老化に伴う社会的役割の変化と日常生活への影響							
第11週	高齢者の生活環境の変化と心理的影響(友人や配偶者との死別・同居のための移転など)							
第12週	高齢者の生活課題と援助の特徴(孤独死・老々介護・健康不安・経済不安など)							
第13週	高齢者の社会参加とQOL(老人会・シルバーボランティア・介護予防など)							
第14週	高齢者の疾病の特徴と日常生活における健康管理							
第15週	まとめ 試験							
評価方法	試験と提出物、出席状況等で評価する							
教科書 教材など	「発達と老化の理解」中央法規出版							
実務経験	保健所にて保健課・健康長寿課等の実務経験あり。また、看護師・保健師・養護教諭の資格を取得					実務経験のある教員による 授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	認知症ケア論 I	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義	
担当教員	川上 道子	学年・学期	1年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須	
授業概要・ 授業内容	わが国は少子高齢社会が久しく続いているが、認知症の方も増える一方である。近年になって先進国の研究やケアを取り入れ、認知症当事者の声も政策に反映されるようになってきた。2024年に初めての治療薬が承認されてはいるが、使用対象者は限定的である。非薬物療法にも期待されるが、まだまだ今後の実践研究が待たれるところである。この科目は、認知症の基本的な医学的知識やケアの考え方を実践に繋がるような内容にしたい。							
到達目標	I 認知症の基礎的理解 1. 認知症のある高齢者の現状と今後 2. 認知症とは何か 3. 脳のしくみ 4. 認知症の人の心理 II 認知症の症状・診断・治療・予防 1. 中核症状の理解 2. 生活障害の理解 3. BPSDの理解 4. 認知症の診断と重症度 5. 認知症の原因疾患と症状・生活障害 6. 認知症の治療と予防 7. 認知症ケアの歴史と理念							
第1週	認知症の基礎的理解(認知症のある高齢者の現状と今後)							
第2週	認知症の基礎的理解(認知症とは何か)							
第3週	認知症の基礎的理解(脳のしくみ)							
第4週	認知症の基礎的理解(認知症の人の心理)							
第5週	認知症の症状・診断・治療(中核症状の理解)							
第6週	認知症の症状・診断・治療(中核症状の理解)							
第7週	認知症の症状・診断・治療(BPSDの理解)							
第8週	認知症の症状・診断(認知症の診断と重症度)							
第9週	認知症の症状・診断・治療(認知症の原因疾患と症状 アルツハイマー型認知症・生活障害)							
第10週	認知症の症状・診断・治療(認知症の原因疾患と症状 血管型・レビー小体型・前頭側頭型・生活障害)							
第11週	認知症の症状・診断・治療・予防(認知症の原因疾患と症状 その他の原因疾患・生活障害)							
第12週	認知症の薬物治療と予防							
第13週	認知症ケアの歴史と理念							
第14週	認知症ケアの歴史と理念							
第15週	まとめ 試験							
評価方法	1. 試験 60点 2. リアクションペーパー・ノート等の記録物 20点 3. 授業態度 意欲 20点 上記を合計し、60点以上を合格とする。							
教科書 教材など	「認知症の理解」中央法規出版							
実務経験	医療法人にて看護業務の現場経験あり 看護師免許					実務経験のある教員による 授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	障害の理解 I	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	佐藤 伸隆	学年・学期	1年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業内容	2001年に国連が制定したICFは、従来からの障害概念、障害者観を大きく変化させた。その一方で、障害や障害者に対する社会の理解はなかなか進まず、今もなお、差別や偏見等が残っていることも事実である。この講義では、これらの問題意識をもって、障害者ケアの基盤となる障害の概念や理念、支援の根拠となる法制度(サービス)、関連する諸サービスについて講義する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○障害(者)観や障害理念の歴史から、ICFの意義と今日的な障害概念を理解する。 ○障害者権利条約がわが国の法制度・サービスに、どのように反映されているかを把握する。 ○障害者児に関する福祉サービス、関連する諸サービスの概要を理解する。 ○介護福祉士として、障害者の尊厳を保持し、生活全体をとらえた支援を行うための視点を得る。 						
授業計画・内容							
第1週	「障害」とは何か: 社会モデル、ICF、障害者権利条約、障害の定義と種類						
第2週	「障害(者)」観のと障害理念: 差別・偏見・排除、障害者運動、ノーマライゼーション、社会的包摂						
第3週	障害者の生活: 地域移行、居住、就学・就労、高齢化・介護、芸術・スポーツ						
第4週	障害者権利条約とその視点: 差別の禁止、平等、自立、社会参加、社会的障壁、合理的配慮、社会的包摂						
第5週	障害福祉サービス①: 障害福祉法体系、障害者基本法、障害者総合支援法						
第6週	障害福祉サービス②: 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法						
第7週	障害福祉サービス③: 児童福祉法、発達障害者支援法、難病法						
第8週	障害関連サービス①: 障害者虐待防止法、障害者差別解消法						
第9週	障害関連サービス②: 障害者雇用促進法、バリアフリー法、補助犬法、障害者アクセシビリティ・コミュニケーション施策促進法等						
第10週	障害関連サービス③: 成年後見制度、日常生活自立支援制度、福祉型信託制度						
第11週	障害者児支援に係る機関、実施機構: 行政機関、施設・事業所、特別支援学校等、障害者計画、実施体制						
第12週	障害者支援に関わる団体: 当事者団体、家族会、きょうだい会、運動団体、支援団体等						
第13週	障害者支援に関わる団体: 当事者団体、家族会、きょうだい会、運動団体、支援団体等						
第14週	障害・障害者の理解に関する啓発方法: あいサポート運動を例に						
第15週	まとめ 試験						
評価方法	授業意欲、積極性: 20% 課題への取組み状況: 20% 定期試験: 60%						
教科書 教材など	介護福祉士養成講座編集委員会編『介護福祉士養成講座 第2版 14 障害の理解』中央法規出版, 2022						
実務経験	高齢者・障害者総合相談センター、障害者権利擁護センター				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	障害の理解Ⅱ		学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	川上 道子		学年・学期	1年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・授業内容	<p>「障害の理解Ⅱ」では、「障害の理解Ⅰ」で法や制度を学んだ後に具体的な障害児者の支援や介護を具体的に学ぶものである。さらには、生活支援技術にも反映する。現状では、対象者の高齢化も伴い、医療的な知識や判断が求められている。多職種との連携を踏まえた活動、特に地域での活動や家族の支援についても大きな課題となっている。新たに加えられ変更された法・制度にも関心を持って学んでほしい。講義が中心ではあるが、視聴覚教材を用いながら分かりやすい内容にしたいと考えている。</p>							
到達目標	<p>障害の概念や障害福祉の基本理念を踏まえた、障害別の基礎的理解と特性に応じた支援を理解する。 1. 障害のある人の心理を理解する 2. 肢体不自由(運動機能障害)を理解する 3. 視覚障害・聴覚・言語障害を理解する 4. 重複障害について理解する 5. 内部障害について理解する 6. 重症心身障害について理解する 7. 知的障害・精神障害について理解する 8. 高次脳機能障害について理解する 9. 発達障害について理解する 10. 難病について理解する 11. 連携と協働について、地域のサポート体制並びにチームアプローチを理解する 12. 家族への支援を理解し、家族の介護力の評価と介護負担について学ぶ。</p>							
授業計画・内容								
第1週	障害児者の法・制度の振り返り							
第2週	障害児者の生活の概要							
第3週	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援(障害のある人の心理)							
第4週	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援(肢体不自由《運動機能障害》)							
第5週	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援(視覚障害・聴覚・言語障害)							
第6週	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援(重複障害・重症心身障害・医療的ケア児)							
第7週	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援(内部障害《心臓機能・呼吸機能》)							
第8週	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援(内部障害《腎臓機能障害・消化器障害・HIV》)							
第9週	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援(知的障害・精神障害)							
第10週	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援(高次脳機能障害・発達障害)							
第11週	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援(難病《パーキンソン病・関節リウマチ他》)							
第12週	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援(難病《筋ジストロフィー・ALS他》)							
第13週	連携と協働について、地域のサポート体制並びにチームアプローチ							
第14週	家族への支援を理解し、家族の介護力の評価と介護負担							
第15週	まとめ 試験							
評価方法	試験 60点 リアクションペーパー・ノート等記録物 20点 授業態度・意欲 20点 合計100点のうち、60点以上を合格とする							
教科書教材など	「障害の理解」中央法規出版 視聴覚教材・プリント等							
実務経験	医療法人にて看護業務の現場経験あり 看護師免許					実務経験のある教員による授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護情報リテラシー	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	近藤 舞	学年・学期	1年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	パソコンやインターネットとのかかわり方を学び、情報に関して客観的な考える力を養う。また学生生活に必要とされるパソコンの基本的な操作方法を身につける。情報のモラル、セキュリティ、SNSについて理解したうえで、授業内容によってPCを使った実習と知識の習得のための座学によって授業を展開する。PCの操作スキルは、課題制作や確認テストで繰り返し、知識と技術が着実に習得できるように教授する。						
到達目標	学生生活や卒業後の職業で生かすための基礎知識とPCの操作技術を習得する。 個人情報の取扱いや情報セキュリティについて習得する。 介護現場に求められる課題解決に活用できるデータサイエンスの基礎を習得する。						
授業計画・内容							
第1週	オリエンテーション						
第2週	パソコンの基本操作: パソコンのデータ入力、情報管理(ファイル、フォルダ管理)						
第3週	情報収集とメディアリテラシー: Office系ソフトの概要、ネットワークの利用、情報の適切な取り扱い、著作権など関連する権利、法律						
第4週	Office系ソフトの活用(1)Word: レポートの作成						
第5週	Office系ソフトの活用(2)Word: 図や表の挿入、印刷						
第6週	Office系ソフトの活用(3)Word: ビジネス文書の作成						
第7週	Office系ソフトの活用(4)Excel: 簡単な作表や基本的な計算、集計						
第8週	Office系ソフトの活用(5)Excel: グラフ作成、印刷						
第9週	Office系ソフトの活用(6)Excel: データベース機能、複数シートの操作						
第10週	Office系ソフトの活用(7)PowerPoint: プレゼンテーションスライドの作成						
第11週	Office系ソフトの活用(8)PowerPoint: オブジェクトの挿入、特殊効果						
第12週	プレゼンテーションソフトの活用(1): 発表テーマ、プレゼンテーション構成の決定、情報収集						
第13週	プレゼンテーションソフトの活用(2): 発表用スライドの作成						
第14週	プレゼンテーションソフトの活用(3): 発表会						
第15週	まとめ						
評価方法	課題の評価、確認テスト、出席状況により評価						
教科書 教材など	最初の授業で提示する						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	